



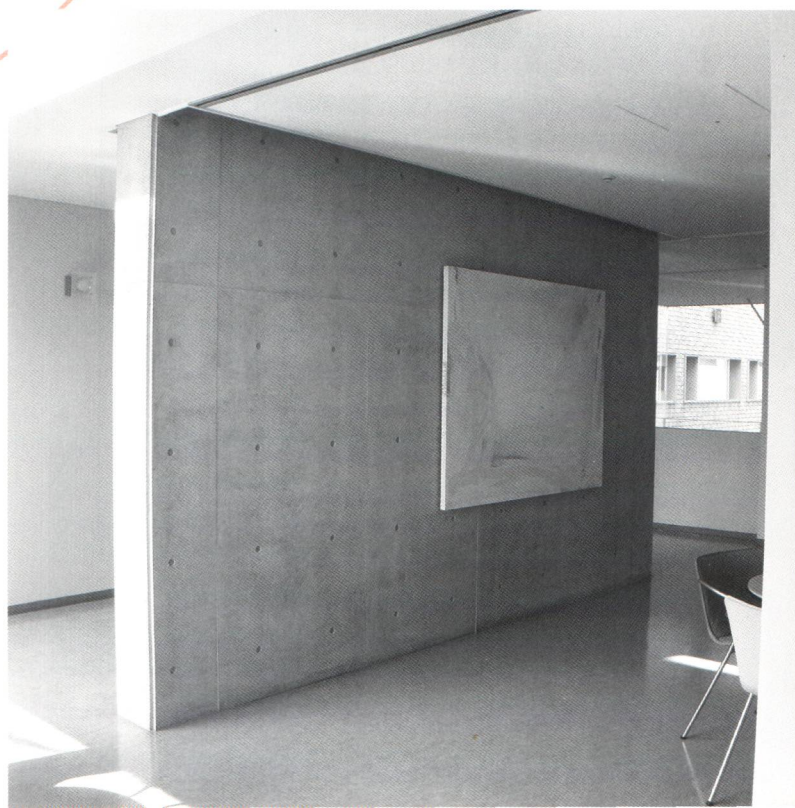
文部科学省私立大学
戦略的研究基盤形成
支援事業採択

今年8月25日に発生した大型の強い台風12号は、和歌山県、奈良県をはじめ、各地に大きな被害をもたらしました。

3.11以降、度重なる災害のなかでわたしたちはいかに生きるか、非常に重い、しかし避けることのできない問いがつねに立ちはだかっています。

今回のニュースレターは、研究所と共催でおこなっている実践活動のうち、園芸療法とアートグループの活動をご紹介します。

どうぞご味読ください。





活動報告

人間科学研究所と学生相談室では、2000年度より、人間科学研究所との共同研究事業として、園芸療法活動を行っています。主な内容は、学外から専門の講師を招き、一般公開の「園芸療法研修会」を開催すること、そして、学生相談室で運営している「Re アワーグループ」のプログラムの一環として実施することです。ここでは、「Re アワーグループ」での園芸プログラムの紹介をしていきたいと思ひます。

Re アワーは、学生向けに毎週金曜日に学生相談室にて開催しているグループで、学生が予約せず、気軽に参加できるオープン形式をとっています。名称には、メールの返信でおなじみの「Re」を使っています。これは、「再び」の意味、そして Re-lax "Re-fresh" などの頭文字でもあります。受験勉強や生活様式の変化により、特定の経験しかすることなく育った学生に、生活に根付いた活動を再体験してもらいたいという意味をこめました。Re アワーでは、園芸、陶芸、書道、料理、絵画、文芸鑑賞、心理テストなど五感を使ったさまざまな活動プログラムを週替わりに提供しています。そして、それらの活動を通して、身体感覚を学んでもらう体験の場、居場所として人間関係を構築していく場、時には学生相談の導入（時に終結）の場となることをめざし運営しています。

園芸プログラムは、季節の草花の寄せ植え、野菜の苗植えと収穫、クリスマスアレンジメントなどを年に計5～6回実施しています。寄せ植えのプログラムは、日常自然に触れることのない学生が気軽に土いじりを体験する入門編になります。このプログラムでは、参加者が土の感触や草花の香りを直に味わうことに加え、学生相談室内やエントランスを飾ることで、他の相談室来室者に季節を感じてもらうことができます。寄せ植えの作業とは、複数の種類の草花を一つの鉢に構成することですが、見た目以外に草花の性質も大きな要素となります。それぞれ成長速度や水分の吸収度に違いがあり、相性のよしあしもあるので、どの草花を選択し組み合わせるかは、思った以上に難しいのです。構成するという点では、箱庭療法と似ていますが、生きている植物を扱う分、「完成＝ゴール」ではなく、その後の成長や季節の移り変わりの影響が付加され、鉢の中は、日々進化していくのです。

春に園芸療法スペースの畑に、じゃがいもとさつまいもの苗を植え、秋に収穫と試食をします。参加がオープン形式であるため、春の苗植えと秋の収穫の両方に参加する学生は少なく、継続して世話をする機会もないため、苗の成長過程を追って見ることはほとんどありません。



←春の寄せ植え



さつまいも掘り→

園芸療法活動

Re アワーグループでの園芸プログラム

企画：渡里 千賀

開期：前期2～3回・後期2～3回

場所：学生相談室園芸療法スペース

共催：学生相談室、人間科学研究所

しかし断片的であっても、植物の一生の節目節目に立ち会う体験は、学生の心の成長にもよい影響を及ぼしているように思ひます。集団で作業することによって、達成感や植物の成長の喜びを共に味わうことができ、学生同士の対人交流が深まることもあります。

クリスマスの時期に、バラなど季節の切り花とオーナメントのアレンジメントをします。生の花々を自分の好みに合わせて選択しアレンジする楽しさは、一人暮らしの若者はもちろん個人の家でもなかなか体験できないため、好評なプログラムです。

生命を育む土を直接いじる行為は、五感を刺激すると共に命そのものを感じることが出来ます。対人関係が苦手な学生同士が集い、植物や土の中の生き物を介してゆっくりしたペースで相手に心を開いていくさまを見ていると、植物の持つ成長力、治癒力と共に集団の持つ相互作用を実感することが多いと感じています。

活動の準備、継続にかかるスタッフの負担の大きさ、参加人数の少なさなど、工夫すべき課題は山積みです。学生の活動の実時間は少ないけれど、生きている物を扱うため、準備や手入は期間中ノンストップで注意を払っていかねばなりません。しかし、緑豊かな相談室を維持していくことや、学生に自然に触れる体験を提供していくことの必要性は、学生の反応からも日々実感することは多いです。いかに学生にアプローチできるかを考えながら、実践を重ねていきたいと思ひます。(渡里千賀)



←さつまいもの収穫



クリスマスアレンジメント→

アートグループ

アートをとおしての コミュニケーション

企画：内藤あかね

開期：年間2期 第2・4木曜日に8回開催予定

場所：心理臨床カウンセリングルーム

共催：甲南大学心理臨床カウンセリングルーム、人間科学研究所



フローティングキャンドルです。



アロマキャンドル。いい香りがします。

2000年から心理臨床カウンセリングルームにおいて「アートグループ」というグループ活動をしています。講師で画家の棕田三佳さんと一緒にファシリテーターである筆者がグループを率いています。対象はおもに成人で、年間16回第2・4木曜日の13時から2時間のスケジュールで開催しています。グループの流れとしては、回ごとに違ったテーマで絵画や造形制作を参加者各自が行い、終了前に皆でそれぞれの作品を味わうというのが基本スタイルです。棕田さんは季節感を大切にする水墨画を専門にしているため、グループでは季節の野菜や果物や草花をモチーフに絵を描いたり、季節にちなんだ工芸課題（団扇やカレンダー制作など）に取り組んだりすることがよくあります。キャンドル作り（写真参照）など、巷で流行の技法を取り入れた制作を試みることもありますし、共同でドールハウスを制作したこともあります。

筆者は20年ほど前に米国のワシントンDCでアートセラピー（芸術療法）を学びました。トレーニングの過程で、病院や学校で実習をし、趣味で絵を描いたり物をつくったりするのはまた違うアートのあり方があることを知りました。心身を失調した人が内面で起こっていることを絵にして他人に伝えたり自己発見したり、葛藤を抱えた人がつくりたいものを見つけ造形しながら解決していったり…そして、そのようなアートの生かし方には作り手を見守り、コミュニケーションに結び付けていくセラピストの存在が不可欠になります。セラピストは教師とは違い、アートの指導をせず技術的な巧拙も問いません。セラピーに来たクライアントがつくりたいようにつくっていきけるよう配慮したり、その過程で生まれる言葉をつないでいくのがセラピストの仕事であり、その関係性においてクライアントは変わっていくのです。「アートグループ」はグループアートセラピーではありませんが、アートセラピーのエッセンスは大切に運営を筆者は心掛けています。

「アートグループ」は普通美術サークルとは趣が異なり、カウンセリングルームの一室で静かに行われています。刺激に敏感な人や対人緊張の強い人でも落ち着いて制作に打ち込めるような雰囲気作りを心掛けています。日常生活において何かに集中し、没頭することの少ない人は、絵筆を動かしたり、粘土をこねたりしながら数十分でも過ごすことで心地よい疲れと達成感を味わえるでしょう。普段社会とのかかわりが薄い人は、他人と一緒に制作を体験することで、小さな一歩を踏みだすことができるかもしれません。雑談や会話が苦手という人も作品を通して自分を表すことでコミュニケーションがとれるでしょう。参加を繰り返し、作品を通して自分と向き合うことでおのずと力が湧いてくる…参加者にはそのような体験をしていただきたいと願っています。（内藤あかね）

これまでの活動

公開研究会

プロジェクト3. 芸術学と芸術療法の共有基盤確立に向けた学際的研究
第63回公開研究会

第7回芸術療法と芸術学の対話

開催日: 2011年9月8日(木) 13:00~14:30

場所: 甲南大学18号館3階 講演室

講師: 三脇 康生(仁愛大学/精神医学・芸術批評)

公開シンポジウム

心の危機と臨床の知 第11回公開シンポジウム

「美と病のトポロジー 芸術療法の過去・現在・未来」

開催日: 2011年9月25日(日) 13:00~17:30

場所: 甲南大学5号館511

シンポジスト: 木股 知史(甲南大学文学部/日本近代文学)

服部 正(兵庫県立美術館/アウトサイダー・アート)

三脇 康生(仁愛大学/精神医療・芸術批評)

企画: 川田都樹子(甲南大学/芸術学)

西 欣也(甲南大学/美学)

主催: 甲南大学人間科学研究科

これからの活動

公開研究会

プロジェクト4. 心理療法の現在に関する検証—臨床と研究の即応的関係の構築—
第64回公開研究会

「『心理臨床』という専門性の共有を考える」

開催日: 2011年12月4日(日) 14:00~16:30

場所: 甲南大学18号館3階 講演室

講師: 大山 泰宏(京都大学/臨床心理学)

司会: 高石 恭子(甲南大学/臨床心理学・学生相談)

指定討論者: 穂刈 千恵(山王教育研究所)

研修会

第5回 思春期発達支援研修会

「精神医学・脳科学からみた発達障害」

開催日: 2011年12月16日(金) 16:30~18:30

場所: 甲南大学18号館3階 講演室

講師: 根来 秀樹(奈良教育大学教育学部/児童青年精神医学)

企画: 森 茂起(甲南大学文学部/臨床心理学)

南野 美穂(甲南大学大学院人文科学研究科/臨床心理学)

司会: 南野 美穂

第3回 アートセラピーワークショップ

「認知症ケアのためのアート3~アート回想療法の体験型ワークショップ~」

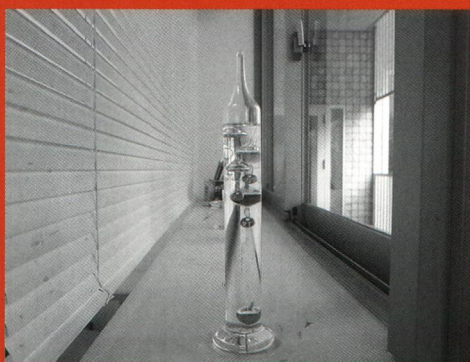
開催日: 2011年12月3日(土) 13:00~15:00

場所: 甲南大学18号館3階 講演室

講師: 今井 真理(四天王寺大学准教授/芸術療法士)

企画: 内藤あかね(甲南大学心理臨床カウンセリングルーム相談員)

発行年月日: 2011年11月30日



編集後記

立冬もすぎ、肌寒い日が続きます。左の写真はKIHSにあるガリレオ温度計です。辞書によると「液体中にそれぞれ質量と体積の違う浮き子を入れ、液体の比重が温度によって変化するのに伴って浮沈する浮き子に表記された数字で、大まかな温度を示す温度計」だそうです。写真ではわかりにくいですが、カラフルでとても楽しいです。

人間科学研究科では、今回紹介した活動のほかにも、さまざまな企画を実施しています。企画についての詳細は、ホームページ(<http://kihs-konan-univ.org/>)に随時掲載しています。ご参照ください。

みなさまのご参加を心よりお待ちしております。